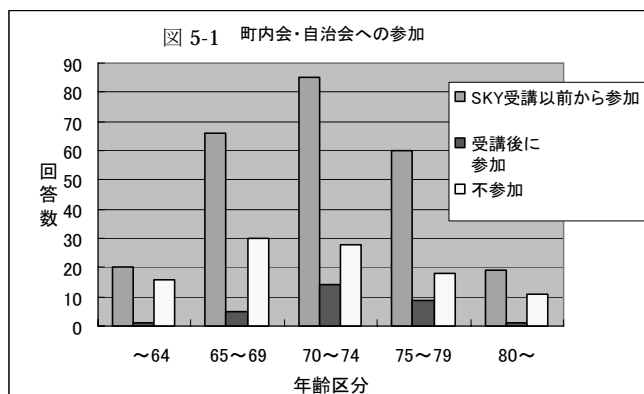


第5章 自由記述からみる学習活動と地域活動の関連性

— 問 26(地域活動全般への意見)を中心に —

今回の調査において、地域活動への参加度をみると、下図のように講座受講生の7割が町内会・自治会活動に参加しており、ボランティア活動への参加も約半数に及んでいる。また、受講を契機に新たに参加するようになるケースも1割前後あり、70代前半でも60代後半に劣らない日常的な地域活動への参加がみられる。このような状況は、実質退職年齢が60代半ば以降に移行しつつある今日にあって、講座が個人の知的・文化的欲求を満たすにとどまらず、地域貢献的意義を少なからず有していることを示している。ここでは、受講生の社会参加を進め、地域生活の質を高めるために、その手がかりとなる要素を、地域活動全般についての自由記述回答から探る。



第1節 地域活動への参加拡大のための課題・方策

問 26 は地域活動全般についての自由記述になっており、受講生一人ひとりが、自治会・町内会などの地縁組織での活動状況、地縁組織の抱えている課題、地域生活上の悩みなどについて、記述されている。422 サンプル中、159 件の記入があり、しかも以下に例示するように、詳細な記述もみられ、地域活動への熱意や関心の高さを読み取ることができる。

また、地域の諸団体の活動の現状に対しては、以下のように様々な問題状況を指摘する声も多い。

- ・地域の交流がほとんどない。自治会の婦人会もあるらしいが、誘いの案内もないので。
- ・自治会は古い住民だけで運営しているように思う。
- ・民生児童委員活動、自治会活動、公民館活動で手一杯の状況である。
- ・地域活動で最初に頭に浮かぶのが、自治会・町内会である。市町村の合併が進んでいるが、自治会町内会は最も自主的、民主的な自治活動の単位ではないだろうか。その活動を支援、助長することをもっと重視するべきと思う。それは相互扶助がその原点だから。
- ・自治会では、高齢化(会員)が進み、活動の範囲、方法が難しくなってきた。

そのなかで、地域活動への参加の輪を更に広げていくための課題・方策に関する内容を整理すると、次の4点(○印)にまとめることができる。課題・方策ごとに、関連する記述を囲みの中に例示する。

○地域(地縁)団体に、新たな参加者への呼びかけの工夫・強化の必要性

- ・「初心者」が入りにくい雰囲気を変えることや、運営方法について学べる機会づくりなど。
- ・地域活動についてのノウハウ講座(活動交流の場づくり)が有効。

- ・今まで仕事中心で来たのでまったく参加していない。退職後地域活動に参加しようと思っても、活動の実態が不明であり、参加しにくい。
- ・自治会や管理組合の役員や理事が輪番制で当たりますので参加している。
- ・当番制の自治会の役員のみです。きっかけがあれば何かやりたい気はある。
- ・活動グループにあらたに参加しようとするとき、一種のハードルがある。仲間意識が強すぎると入りにくい。新人が気安く参加できるような雰囲気が必要。
- ・何十年と全力投球、定年退職後も公的な仕事についていたため、なかなか地域活動への参加はできにくい状況であった。これからは…と思うが、何を、どうしていけばよいかと迷っている。
- ・私はリタイヤー(定年退職者)であるが、現役時代には全然参加していない。地域には既に人的にもネットワークその他役員などもできあがっていて、今更入り込めない。
- ・過去に学校関係、町内会役員などを歴任したが、個人的にあまり積極的に参加したいと思わない。人間関係、制度の矛盾点など、なかなか入り込みにくい世界だと感じた。
- ・長年、サラリーマン営業職のため、地域とのつながりをおろそかにしてきた報いで、具体的に分かりかねる。後悔している。
- ・新しい団地であるから、段々と高齢者も増えてきているので、何らかの交流が出来ればよいと思っているが、なかなか機会に出会えない。今後はいろんな情報をさぐり、参加してみたいと思っている。
- ・地域活動として小学区内の体育祭、防災訓練などの行事に積極的に参加し、隣近所との連携を図っている。地域活動についてのハウツーを高齢者にわかるように説明し、積極的に活動参加を進める必要があると思う。

○ボランティアサークルなど、“組織”に加わらなくても、気軽に参加できる「場」づくりが重要である。

- ・老人クラブ、地域女性会などに籍をおかないとボランティアができない。やりたいときにできるようなボランティアサークルがあればいいと思う。難しいと思うが。

○リーダーや、活動の中心的メンバーとなる人材の発掘・育成が重要である。

・地域活動の参加もまだまだ地域で支え合うなどは程遠い。身近な地域活動する「ボランティア」の育成・地域社会の担い手の育成など急がれる。さらに学校・社会・企業内教育など福祉教育の充実や広い教育が必要。しかしこれらは時間がかかる。今出来る地域活動は、まず、「隣近所の住民同士の普段の付き合い」が基本。有志を募って、話し合い、知恵を出し合って共通認識する。その結果を町内会や老人会に持ち寄り、協議。町内回覧で情報発信する。無理をせず、出来ることから行動に移す。活動しながら検討を加え人の輪を広げていく。(核になるリーダーの人となりが必要)

○地域での参加がみられる活動のうち、子どもの地域活動に関わるグループへの参加が、自治会・町内会や趣味のサークルなどと比べると少ないが(17%)、参加している感想としては、次のような積極的な内容をみることができ、この分野でのサポートの必要性がうかがえる。

・子どもの数が減って、町内での行事(お祭りや地蔵盆、運動会など)の意義が薄くなっていたが、ここ1・2年は若い世代の新入り家族が増え、子どもの数も多くなり、行事の参加に意義と意欲が出てきた。

・清掃活動、小学生との交流(昔の地域の様子、昔の遊び、戦中戦後の社会事情 etc.)、地域ウォーキングマップ作りへの参加、見守り隊(下校時、都合のつく日のみ)

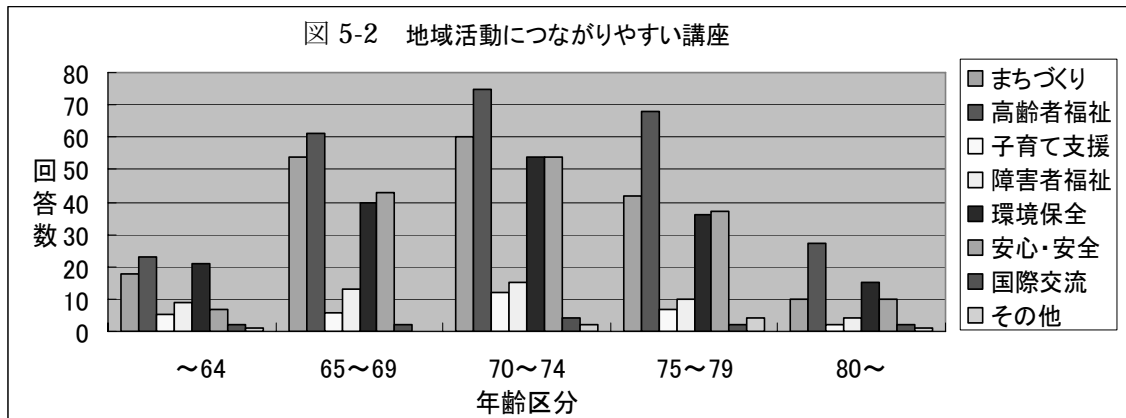
・子供達の見守り活動とまちの美化ボランティア活動を日常的に行っている。子供達の個性や一年ごとに成長していく姿に接して毎日楽しく、また地域の人々との交流も楽しみである。

・気持ち的にはたくさんあるが、何しろ高齢のため気後れする。今のところ子ども安全パトロール委員で学童と接する時間(週1回、1時間ほど)。社会活動はもと職場の退職高齢者の会団体で、懐かしい元職場の仲間と逢う機会も出来、楽しみとなっている。

第2節 学習活動を地域活動につなぐ講座内容

SKY大学などでの学習成果を地域活動につないでいくには、上記のように、地域団体の活動方法や運営形態などの工夫とあわせて、学習活動と地域活動をつなぐ独自の取組や配慮が必要であるが、講座の内容の設定についても、次のような「地域活動につながりやすい講座」についての意見を踏まえた検討が必要である。

「地域社会での活動につながりやすい講座」についての意見分布は、次のようになっており、「高齢者福祉」「まちづくり」「安心安全」「環境保全」が相対的に多くなっている。これについては、自由記述でも、関連する要望が寄せられている。



講座開設についての要望

- ・自治会役員(長)や民生児童委員を務めた関係で、一番の関心ごとは独居高齢者の問題です。特に孤独死や高齢者の犯罪(万引きなど)、社会問題になっている。その対策の一環として、孤独感を和らげるため、近所の高齢者が気楽に集って会食を始めて、互いに交流ができるよう手伝っている。SKY大学でも高齢者福祉に関係する講座を増やして欲しい。
- ・21世紀は心の時代、助け合いの時代。高齢者相互の助け合いが必要。この方面の講演を増やして欲しい。

まとめ

一般には、生涯学習における学習成果の活用については、少子高齢化対策や環境保全といった、いわゆる現代的課題についての学習と、ボランティア活動への展開の必要性とがいわれているが、今回の調査からは、地域活動への「参入障壁」を取り除く仕組み(独自の取組)の必要性が浮かび上がったといえる。また、そのような“仕掛け”ができるならば、今回の調査の意義を高めることができる。